

大宮通信

大宮中学校 学校だより
第107号 2026.2.16

今は、春への準備期間



昔から3学期の3か月は、「行く1月、逃げる2月、去る3月」と言われます。それくらいあつという間に時間が過ぎていく感じがする3か月です。その言葉の通り、もう2月も後半に入りました。3年生は先週私立高校の入試を終えました。そしていよいよ卒業式まで1か月を切りました。

今年の冬は比較的寒い日が多いように感じます。しかし、この週末は春のような暖かい日になりました。夕方、日が暮れるのも遅くなっています。運動場の北側にある梅の木も、だんだん花が開いてきました。少しずつ春に近づいていることが実感できますね。

今日は、新聞を話題にします。

先日も新聞に投稿された記事を紹介しました。私は毎日、さまざまな情報を手に入れるために、新聞を読むようにしています。

皆さんにも、活字を読むことに少しでも慣れてもらおうと思い、今年度は各学年で、新聞記事を読むことにチャレンジする教材を使って、学習をしています。

ところで職員室前に、小学生新聞や中高生新聞が置いてあるのを知っていますか。

小中高生にも読みやすいように、ルビがついていたり、写真がたくさん載っていたりします。最新のニュースを知ることもできますし、学習についての記事も読みます。

先週新聞で、「休眠打破」という言葉が紹介されました。これは、植物の成長に関連する言葉です。

例えば桜の木は、実は葉っぱがたくさんある夏には、次の春に咲く花の芽を出し、エネルギーを蓄え始めます。葉っぱをすべて落とす秋から冬の始めにかけて、成長を止め、眠りに入ります。その蓄えたエネルギーが、ある一定の期間の寒さを経験することにより目を覚まし、春には美しい花を咲かせることができます。

花の芽が眠りから覚めて、春に向けて成長していくためには「冬の寒さ」が絶対に必要なのです。こうして、寒さが植物の眠りを打ち破り、成長させ、花を咲かせることにつながるということを「休眠打破」と言うのです。

私たちの成長にも、同じことがいえるのではないかでしょうか。寒い冬のように感じる時期も、実は次の春のための大切な時間なのです。